

100条委員会調査結果まとまる

平成19年2月1日
中津川市議会

委員会の意見

中津川環境センター調査特別委員会（通称：100条委員会）は、平成16年4月に供用開始された環境センターの問題指摘を受け、平成17年9月26日に設置しました。その後約1年をかけて、環境センターに関する問題点の ①下水道汚泥の処理 ②性能 ③契約時の特記仕様 ④契約と価格 について調査してきました。

平成18年12月22日の市議会において調査報告書を議決しましたので、市民の皆様にごその内容をお知らせします。

☆契約について

- 環境センター全ての問題は、管理者の主導により随意契約を決定したことに起因している。
- 随意契約は不透明な経過により決定されており、技術的・価格の合理性に欠ける。また、競争入札平均価格と比べ高い契約価格で妥結してしまっている。
- 特記仕様の採用により、安定稼働の面で性能レベルダウンになっている。中津川市が当初目指した安全・安定稼働の環境理念と異なる結果となった。
- メーカー選定時市民に対し管理者は、環境政策上万全な施設であるとの説明責任を果たしていなかった。

☆下水道汚泥処理について

- 環境センターにおける下水道汚泥処理は、技術的な検討が不十分なまま変更されている。現在の処理方法は最良な方法ではないと考える。
- 下水道汚泥処理の性能が大きく変わる重要な仕様変更であるが、変更契約がされていない。これは事務執行上不適正である。
- 現在、環境センターで全量焼却処理が出来ていないのは、管理者としての職務不履行である。

☆事業推進について

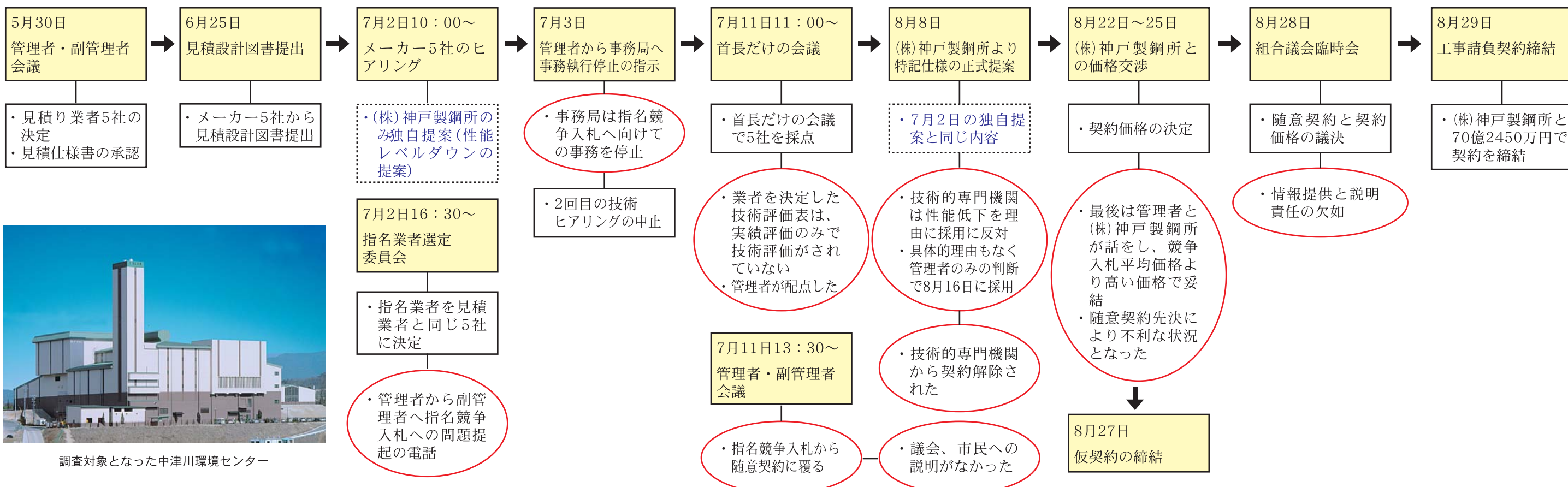
- 重要な情報の提供と十分な説明責任が欠如しており、議会の立場を軽視し、事業の執行において真摯な姿勢に欠けていた。
- 最も権威のある技術アドバイザー機関から、随意契約になったことで契約を解除され、その後の事業推進に支障を来たした。
- (株)神戸製鋼所は、メーカーとしての説明責任及び契約における受注者としての責務を十分果たしていなかった。
- 約100億円もの一大プロジェクト事業でありながら、人員配置など職員体制の不備と県との協議不足があった。
- 発注仕様書の重要性と契約の変更に対する認識が不足しており、事務執行上適正さを欠いた。

☆委員会の提言

- ◎現在の環境センターにおける汚泥処理方法は、技術的・経済的にも最良な方法ではないと考える。よって早急に、技術的専門機関の指導を得ながら、下水道汚泥全量乾燥焼却処理を目指して、適切に対応すること。
- ◎稼働後の給じん設備と溶融炉のトラブルは、重大トラブルと認識している。また、特記仕様の採用により、技術的専門機関が反対していたとおり性能レベルダウンになっている。現在も契約の性能保証値を完全には満足していない状況にあり、性能発揮について十分ではない。今後とも技術的専門機関の指導を得て、契約に基づき安全・安定・経済的な稼働に向け更なる改善を続けること。

契約締結までの流れ

平成13年



調査対象となった中津川環境センター